

日本聖公会の祈禱書にある教会問答には、このような問いがあります。「救いに必要な聖奠(sacrament)とは何ですか」。

そしてこの問いに対する答えは「目に見えない霊の恵みの、目に見えるしるしまた保証であり、その恵みを受ける方法として定められています」。

sacramentは聖公会では聖奠と訳しますが、カトリック教会では秘跡、正教会では機密、多くのプロテスタント教会では礼典と呼ばれているものです。語源は兵士が軍に忠誠を誓うという意味があり、それが転じて人がキリストに服従することを意味するようになりました。

古代キリスト教の神学者アウグスティヌスは、 sacramentとは見えない恵みの見えるしるしだと説明しました。つまり目には見えないイエス・キリストとのつながりを、目に見える形で行うのです。

プロテスタント教会では、イエス様が定められた洗礼と聖餐の二つだけを、 sacramentと決めました。この二つの儀式によって、わたしたちはイエス様に結びつくと考えています。

一方カトリック教会や正教会では、洗礼、聖餐の他に、堅信、告解、終油、叙階、婚姻を合わせた七つを sacramentと定めています。聖公会はプロテスタントと同じ二つだけと考えていますが、残りの五つは聖奠的諸式(sacramental rite)として、同じように大切にしています。

パウロは、 sacramentとは魔術的な効力を持つものではないと言っています。洗礼や聖餐を受けただけで、違う人間になってしまうわけではありません。しかしイエス様が一緒にいてくださることを感じる事ができれば、素晴らしいと思います。

次回は「サドカイ派」です。お楽しみに。



「洗礼盤」

桃山基督教会

そこで、イエスは言われた。「あなたがたには神の国の秘密が打ち明けられているが、外の人々には、すべてがたとえで示される。」

(マルコによる福音書 4章 11節)

